

【一中】中庭のアジサイが咲き始めました

本文:

本校の中庭のアジサイが咲き始めました。「紫陽花（アジサイ）」は夏の季語ですが、個人的には夏の中でも「梅雨」をイメージする花です。6月9日（日）は教育の日なので、参観されるときに中庭の櫟の木の下に咲いているアジサイの花も楽しまれてください。

季語の「七変化（しちへんげ）」はアジサイを指します。アジサイは植わっている土壌の酸性度によって色が変わることが知られています。土壌が酸性だと青色、アルカリ性だとピンク色のアジサイになります。（品種によってそうならないアジサイもあります）小学校から使っているリトマス試験紙とは逆の色になります。リトマスも元々はリトマス苔から得られる染料です。自然界には化学変化で色が変化するものも色々あるので、理科の自由研究などで、生徒が研究してくれたらと思います。色が変化する仕組みを調べても面白いですし、「酸性」「中性」「アルカリ性」を調べつ試薬を作っても自由研究になります。

先日はツバメの営巣について書きましたが、同じものを目にして、そこから次につなげる一歩を子どもたちに提示出来るかどうか、子どもたちの成長の幅を決めるのではないかとよく感じるようになりました。単純に花を愛でるでも良いのですが、アジサイから、季語⇒俳句⇒文学へでもよいし、色の変化⇒科学でも、土壌酸性度の変化⇒園芸でも、アジサイの歴史でも、その土地の地質や成り立ちでもよいと思います。子どもの可能性を広げるとは、こんな次につながる一歩を示し後押しすることではないのかと思うことが多くなってきました。もちろん子どもがそれに乗ってくるかどうかはわからないのですが、多くのことを示してもらえる子どもは幸せだなと私は思います。

保護者の皆様はどのようにお感じになるでしょうか。

